

広島大学学術情報リポジトリ
Hiroshima University Institutional Repository

Title	フランス語に於ける借用語について 〈特集〉
Author(s)	村上, 勝也
Citation	広大言語 , 6 : 26 - 30
Issue Date	1966-12-10
DOI	
Self DOI	
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00046241
Right	
Relation	



フランス語、及び英語固有語などと違って、色々な他の雑念なしに、純粹にその輸入された意味だけで民衆に受け入れられたのでそこに曖昧さがないためでもあろう。このように學術語にはギリシア語起源のものが多数あって、英語の語彙を豊富にしているので、その源であるギリシア語の意味を心得ておくことは頗る大切であると思う。たとえば、

anthropology (<Gk. anthrōpos=man+-log- cf. legein=to speak+
-ia), biology (<Gk. bios=life), cacography (<Gk. kakos=bad, evil),
euphemism (<Gk. eu=well), biography (<Gk. graphein=to write, draw),
hemisphere (<Gk. hēmi-=half), lithography (<Gk. lithos=stone),
metaphor, metaphysics (<Gk. meta-=among, after, over), neologism
(<Gk. neos=new), neurosis (<Gk. neuron=nerve), panacea (<
Gk. pan=all), periphrasis (<Gk. peri-=around), physiology (<Gk.
phusis=nature), synchronize, synonym (<Gk. syn-=with) etc. は一般
的な例である。

フランス語に於ける借用語について

村上勝也

§ 1 Avant-propos

ブルーム・フィールドは、借用を、文化的借用、親密的借用、方言的借用の三種類に分類している。私は、この中の、文化的借用の立場から、ある国民が、他のある国民に何を教えたかということを知る目的で、フランス語におけるアラビア語、ゲルマン諸語、その他の言語からの借用語を調べてみた。原稿枚数の関係から、ラテン系の言語、その他は省いたが、それらは次回に書きたいと思う。なお今後は、ある特定の言語に的を絞り、「借用語はどのようにして借り手の言語の語彙に同化してゆくか？」という問題にまで掘り下げるとおもしろいと思っている。

参考：Précis d'histoire de la langue et du vocabulaire français, par A. Dauzat, Historical French grammar, by Darmesteter, Etymologisches Wörterbuch der französischen Sprache von Gamillscheg.

§ 2. Arabe

十字軍の遠征(1096～)により、中近東諸国との貿易活動が活発となり、それに伴って、あるいは直接に、あるいは間接(イタリア語、スペイン語、etc.)に借用された。これらは、ほとんどが、中近東に特有の物品、産物、慣習の名称である。

12世紀: amiral「海軍大将」、azur「青空」、calife「カリフ」、coton「綿」、drugement「通訳者」、hasard「サイコロ遊び」

13世紀: gazelle「カモンカ」、girafe「キリン」、matelas「マットレス」、jupe「スカート」、soudan「回教君主」、arsenal「兵器庫」、orange「オレンジ」

14世紀: épinard「ホウレンソウ」、magasin「商店」、cotren「タール」

15世紀: dounane「税関」

16世紀: 新たな貿易活動が始まり、イタリア語、スペイン語の他に、ポルトガル語、英語、etc. 仲介による借用語が入る。

abricot「アンズ」、artichaut「チョウセンアザミ」、assassin「暗殺者」、argousin「監守」、moire「ヤギの毛織物」

17世紀: alcôvô「ベッドをはめ込むカベのくぼみ」、bazar「商店」、carafe「水ビン」、lilas「リラ」、café「コーヒー」

一方、これらとは別に、アラビアで発達した医学薬学用語、数学、天文学用語etc. 科学用語が借用されている。

13世紀: élixir「エリキシル剤」、sirop「舎利別」、chiffre「ゼロ」

14世紀: julep「水薬」、zenith「天頂点」

16世紀: alcool「アルコール」、estragon「よもぎ」、algèbre「代数学」、azimut「方位角」、alcoli「アルカリ」、zéro「ゼロ」

19世紀: アルジェリアの征服以来、アラビア世界との接触により、新しい借用語がアフリカ民族の仲介によって入る。

cheik「アラビアの君主」、mosquée「回教寺院」、zouave「アルジェリアの歩兵」

1914～18: オ一次世界大戦により、軍隊用語、その他の借用語が目立つ。clebs「犬」、lascar「大胆な奴」、nouba「酒宴」、gourbi「柴小屋」、caoua「コーヒー」、

なお、北アフリカで話されているフランス語は、アラビア語の語彙の浸透が特に著しい。

§ 3. Allemand

ガロ・ロマン語の時代に、ゲルマン民族、特にフランク族の侵入によって、フランス語はゲルマン系の語を約200持っているといわれているが、ここに述べるのは、中世フランス語(14

～16世紀)及びそれ以後のものとする。

建国初期のフランスとドイツの関係は、カロリング王朝の崩壊(987)によって強まる。その後、フランス文学は、ドイツに多大な影響を与えるが、これは一方的なものであった。ドイツ語からの最初の借用がなされるのは、全国からの勇士が軍隊に集まってきた百年戦争(1339～1453)の頃からである。以後延々と続く宗教戦争、特に三十年戦争(1618～48)に於いて、多くのドイツ語の軍隊用語が借用された。

14世紀: halbran「野ガモの雑」、nique「嘲笑」

15世紀: blocus「包囲」、boulevard「塁道」、lansquenet「傭兵」

16世紀: arquebuse「火繩銃」、reître「騎兵」

17世紀: bivouac「露営」、halte「停止」、havresac「背のう」、sabre「サーベル」

一方、ドイツに特有な産物の名称、及び鉱物学の用語もこの時代に入った。

16世紀: bière「ビール」、potasse「苛性カリ」

17世紀: zinc「亜鉛」

18世紀: cobalt「コバルト」、feldspath「長石」、gneiss「片麻岩」、quartz「石英」、kirschwasser「桜桃酒」、nouille「干しうどん」、vasistas「覗き窓」、vermout「ベルモット酒」

19世紀: bock「小ジョッキ」、chope「大ジョッキ」、choucroute「酢づけキャベツ」

フランス革命(1789)、ナポレオン戦争(1804～)により再び軍隊用語、下士官の兵営用語などが入った。

19世紀: blockhaus「堡壘」、dolman「長外衣」、képi「軍帽」、chic「乗馬技術」、frichti「肉入りシチュー」

§ 4. Anglais

17世紀: anglicismes (英語ふりの語)が、初めて姿を現わした。それは、大英帝国艦隊の発展の時代であり、多くの海語、貿易(品)用語、格式及び制度の名称である。

dock「ドック」、drague「撈錨」、paquebot「郵船」、yacht「ヨット」、guinée「ギニー(英国の貨幣)」、rhum「ラム酒」、flanelle「フランネル」、corporation「社団法人」、allégeance「忠順」、baronnet「准男爵」、comité「委員会」、pamphlet「パンフレット」、quaker「クエーカー教徒」

18世紀：Voltaireが18世紀を「英国人の世紀 (le siècle des Anglais)」と呼んだように、「英国狂」(Anglomanie)の時代であり、借用語の数も増大する。航海、貿易用語の他、英国議会政治を称賛する作家達によって普及された多くの政治用語、その他、スポーツ用語、英国様式の料理、飲み物、衣類etc.の名称である。

brick「小帆船」、cabine「船室」、coke「コークス」、importer「輸入する」、sloop「スloop船」、budget「予算案」、club「政治結社」、congrès「会議」、jury「陪審」、session「開廷期」、verdict「評決」、vote「投票」、boxe「けん闘」、jockey「競馬騎手」、bifteck「ビフテキ」、grog「グロッグ(酒名)」、punch「ボンズ(飲み物)」、pudding「プディング」、vedingote「フロックコート」、humour「ユーモア」、sleen「憂うつ」、sentimental「感傷的な」

19世紀：football「フットボール」、tennis「テニス」

§ 5. Néerlandais

カペー王朝(987~1328)の時代は、フランスはドイツとよりむしろ貿易、王朝系統戦争etc.に於いてフランドルと多くの交渉をもっていた。

多くの海語の他、特に後のオランダとの貿易によって、製造品及び輸入商品の名称の借用が目立つ。

12世紀：bac「渡船」

13世紀：amarrer「船を停泊させる」、lest「脚荷」、faille「ファイユ(絹布)」

14世紀：matelot「水夫」、digue「防波堤」、quille「龍骨」、vilebrequin「曲がり柄錐」、

15世紀：brodequin「編上靴」

16世紀：vase「泥」、bouquin「古本」、mannequin「人体模型」、varlope「かんな」、égriser「(宝石類を)磨く」、frelater「悪い混ぜ物をする」

17世紀：colza「菜種」

§ 6. Scandinave

スカンディナヴィア諸語からの借用語は、そのほとんどが航海用語に尽きる。

12世紀：équiper「乗組員を配置する」、cingler「一定の進路をとる」、hauban「シュラウド」、hune「櫓椽」、vague「波」

14世紀：gréer「織装する」、marsouin「内船尾材」、tillac「上甲板」

16世紀：tribord「右舷」、bâbord「左舷」

§ 7 Slave

16世紀: pistole「ピストル」, coup「砲弾」

17世紀: calèche「無蓋の軽四輪馬車」, coche「駅馬車」, cosaque「コサック」, cravate「クロアチア産の馬」

18世紀: knout「笞刑」, moujik「農民」, samovar「湯沸し」, steppe「大草原」, ukase「勅令」

19世紀: mazurka「マズルカ(舞踏)」, polka「ポルカ(舞踏)」, redowa「ポヘミア舞踏」, tsar「ロシア皇帝」

§ 8. Hindous et Malais

17世紀: bambou「竹」, cornac「象使い」, pagode「塔」, palanquiu「輿」, casoar「ヒクイドリ」

18世紀: paria「賤民」, orang-outang「オランウータン」

19世紀: cachemire「カシミヤ織」

§ 9. Langues d'autres

16～18世紀に於けるヨーロッパ人の、新大陸開発は、多くのアメリカ土語をもたらす原因となった。これらは主としてスペイン語、ポルトガル語を通して入った。

16世紀: ananas「パイナップル」, ouragan「大旋風」

17世紀: acajou「マホガニー」, alpaga「アルパカ毛織」, cacao「ココア」, condor「コンドル」, tabac「タバコ」

18世紀: sagou「サゴ米」, tatouer「刺青する」

なお、中国語から thé「茶」, バンドゥー語から, bonane「バナナ」, 日本語から, mo-usmé「娘」, geisha「芸者」, harakiri「切腹」, bouze「坊主」etc. が借用されている。これらはほとんどがその民族特有の風習、その国の産物名等である。